

二宮町立二宮西中学校

研究テーマ：9年間を見通した共通性と一貫性のある指導・支援を通した、
「学びに向かう力」の醸成と資質・能力を育む指導のあり方(2年次)

1、実践の目的

学習活動において「主体的・対話的で深い学び」を通して、二宮町が育みたい汎用的な資質・能力を育成したい。そのために小学校で身に付けた資質・能力を中学校に引き継ぎ、発展させることが必要である。そこで義務教育9年間を見通して、小・中学校が共通性と一貫性のある指導・支援を行うことが不可欠であると捉えた。このことにより、小・中学校の指導・支援がぶれることなく資質・能力を育成することができると考えた。

二宮町で育みたい汎用的な資質・能力		
知識及び技能	思考力 判断力 表現力	学びに向かう力 人間性
①主体的に継続して勉強する	①必要な情報を集めて分析する	①多様な価値感の仲間を増やす
②多様な学びで知識を吸収する	②状況に応じて適切に判断する	②互いの違いを認めて高め合う
③知識を応用して上手に使う	③論理的で柔軟に思考する	③諦めずに自分の夢をかなえる
	④自分の考えを正しく伝える	

また、児童生徒が「学校に行くのが楽しい」と思えるのは所属する集団で「自分のよさを発揮できていること」言い換えれば「自分にはよいところがあると思える」ことが重要な要素と考えられる。このように一人一人の児童生徒がかけがえのない存在として認められている必要がある。そのためには小・中学校を問わず「誰一人取り残されない学級集団・学習集団づくり」に前述と同様、共通性と一貫性を持って取り組む必要がある。このことが「学びに向かう力」の基盤づくりにつながると考えた。

以上2つを実践の目的とした。

2、実践の内容

(1) 5校統一の講師と研究の手引き

研究を推進するに当たり共通性と一貫性をもって研究に取り組めるように、二宮町5校統一の講師として教育力向上アドバイザー吉新一之氏（元川崎市立川崎小学校長）を迎え、各校で行われる校内授業研究会に事前検討会を含めて指導・助言を仰いでいる。また講師監修のもと研究の手引きを作成し、全ての先生方に配付し、それに基づいて研究に取り組んでいる。



(2) 研究授業、研究協議の様子

研究授業について、第1回目の研究授業では、道徳の授業（1年1組）を行った。現在の1年生は、小学校より二宮町が志向する「クラス全員での話し合いの授業」を実施しているため、スムーズに話し合いの授業を行うことができていた。

第2回目の研究授業では、国語の授業（2年3組）で「討論の仕方を身に着ける」という課題の授業を行った。第1回目の研修

会とは異なり、小集団での話し合いを行ったが、学級の受容的な雰囲気と授業者の手立てにより、活発な討論が行われていた。

第1回・第2回の研究授業の後の協議会では、教師が生徒役・研究主任が教師役になり、「今日の研究授業で考えたことを、明日からの自身の授業にどう生かすか」というテーマで、「話し合い」を行った。教師が生徒役になることで、「話し合いの授業」における思考の連続性や、皆で一つのことを考える楽しさを実感することができた一方、話し合いの授業に参加できない生徒への対応の難しさや話すことに対して苦手意識がある生徒の気持ちも実感することができた。

3、実践の成果

(1) 教師の変容

話し合いの授業について、校内で共通認識を持つことはできていない。話し合いの授業について、実践して効果を実感している教師と、効果を実感しているが話し合いに授業時数が割けていない教師、効果に疑問を持つ教師が混在する状況である。特に技能教科の担当は、1週あたりの授業数が少ないため、話し合いに時間が割けない、と考えている教師が多い。しかし、校内研修をとおして話し合いの授業を実践し、その効果を実感している教師も存在する。

(2) 子どもの変容

先述の通り、1年生は小学校より話し合いの授業を行っているために、非常によく話し合いをすることができている。本校が行っている学習アンケートによると、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」という質問に対し、肯定的な回答が5月から12月にかけて6%上昇した。学年

が上がるにつれ話し合いが活発でなくなりやすい傾向にあることを踏まえると、今回の結果から1年生が話し合いの有効性を実感できていることが分かる。

4、今後の展開

(1) 残された課題

上記の通り、校内の教師で共通認識を持つことができていないことが大きな課題である。特に技能教科で、習得させるべき事項と授業時数のバランスを取りながら話し合いの授業を取り入れることの難しさを解消しなければ、校内で一丸となって取り組むことは難しいと考える。また、日常の業務に忙殺されるあまり、研究活動自体に対して消極的な教師も多いため、行事や会議、部活動などの日々の業務の見直しも必要だろう。

ただ、先述の通り話し合いの授業の効果を実感し、積極的に実践する教師が増えてきたことも事実である。また、来年度以降も、今年度と同じく小学校で話し合いの授業を経験してきている生徒が入学してくるので、話し合いの授業が行いやすくなる。そのため、来年度以降も徐々に話し合いの授業について取り組み、少しずつ話し合いの授業を行う教員が増えることを期待したい。

(2) 今後の研究について

来年度以降も二宮町の5校で統一しているテーマをもとに研究を行いながら、話し合いの授業について理解を深めようと考えている。小学校からのつながりを意識しながら、「(特に技能教科の)学習事項を習得させつつ話し合いの授業の時間を確保する手段」や「教師が積極的に研究に取り組めるための日々の業務改善」「進級とともに拡大する学力格差がある中での話し合いの授業の方法」、について、校内で理解を深めたい。